



# 神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590 / CHARTERED MAY 29, 1976 / WEEKLY BULLETIN

2005-2006年度RI会長  
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

## 超我の奉仕

2005～06年度  
第2590地区ガバナー  
金杉 誠



SERVICE Above Self

会 長	山本 登	副 会 長	吉田 隆男
副 会 長	山木 幹夫	会長エレクト	小池 将夫
幹 事	江森 国一	クラブ会報	高田 修
S A A	吉橋佐千男	会 計	舘野 典久

- 事務局 / ホテルキャメロットジャパン内  
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3  
TEL:(314)3900 FAX:(314)3555
- 例会日 / 毎週金曜日 0:30～1:30 PM
- 例会場 / ホテルキャメロットジャパン
- 創立記念日 / 昭和51年5月29日
- URL / <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail / [kerc@beach.ocn.ne.jp](mailto:kerc@beach.ocn.ne.jp)

【クラブテーマ】  
原点に回帰。そしてロータリーを楽しもう。



【八幡神社（白幡仲町）（白幡仲町 138 番地）】

## 2005-06年度 第45号 週報NO.1464

2006年(平成18年)6月16日 第1464回例会記録 6月23日発行

司 会	飯田 泰之 副幹事
点 鐘	山本 登 会 長
斉 唱	我等の生業

### 結婚記念日祝

犬飼 和春 君 (6月18日)

### 幹事報告

□例会変更のお知らせ

横浜鶴峰 R.C 7月15日(土)→16日(日)  
移動例会・納涼花火大会  
7月22日(土)→通常例会

□本日例会終了後、第6回クラブ協議会を4階にて行います。  
□次週例会終了後、定款細則改定についての意見交換会を5階ジュビリーⅢにて行います。

□週報ご恵贈クラブ  
ザ・ロータリアン  
タウンニュース

### 委員会報告

矢野 修二 国際奉仕委員長  
ジャワ地震災害義援金募金にご協力ありがとうございました。  
金額の合計は40,000円になりました。

### 出席報告

山田 正憲 出席委員長

会員総数	65名	(48 + 17)名	
出席会員数	40名	(33 + 7)名	
出席率	68.75%		
ゲスト	0名	ビジター	0名
前回補正後	97.92%	前々回補正後	休会

### スマイルボックス

加藤 仁昭 副SAA

犬飼和春君 ①結婚祝いありがとうございます。②第1、第2テーブルミーティングを23日に開催いたします。よろしくお願ひします。

山本登君 本日学会の為、クラブ協議会を欠席致します。1年間のまとめと次年度への申し送りを宜しくお願ひ致します。

富居利貞君 第3テーブルマスター、副マスター、テーブル

### 本日《6月23日》のプログラム

- ◆斉 唱 それでこそロータリー
- ◆献 立 三元豚のポワレ
- ◆卓 話 「年度未挨拶」

会長・副会長・幹事・会計

の皆様、ありがとうございます。帰りに横山さん、江森さん、お世話をかけました。

**岩澤利雄君** 昨日の第3テーブルミーティング参加の皆様ありがとうございました。青柳さん、奥様によろしく。

**永井隆俊君** ①盧会員、昨日は地区米山奨学委員会で大変お世話になりました。②本日のお堅い話になると思いますので、居眠りしながら聞いて下さい。

**横山範夫君** ①昨日のテーブルミーティングの岩澤テーブルマスター、月山副マスター、ご苦労様でした。②永井会員、卓話ご苦労様です。

**古川陽太郎君** ①岩澤さん、月山さん、昨夜はお世話になり有難うございました。特に完璧に人間性を回復された河野さんには大変お世話になりました。②脇田さん、先日は御苦労さまでした。③永井隆俊さん、岩澤さん、先日は有難うございました。永井さんには今夜もよろしくお願い致します。

**川邊正男君** ①昨日の第3テーブルミーティングに出席の皆様お世話様でした。②加藤さん、お世話様でした。

**森永正昭君** 永井さん、本日の卓話、楽しみにして居ります。

**横溝亘君** 永井さん、本日の卓話、楽しみにしています。

**脇田いすゞ君** 今日はひどい雨で、来るまでにびっしょりになりました。皆様健康に気をつけましょう。

**加藤仁昭君** 昨夜の第3テーブルミーティング、岩澤マスター、月山副マスター、お世話になりました。

6月16日	12件	29,000円
本年度累計額		2,263,790円

## 第6回クラブ協議会開催

【日 時】平成18年6月16日（金）例会終了後

【場 所】ホテルキャメロットジャパン 4階 フロントシア  
会員24名出席のもと、各委員長より本年度の活動状況及び未達事項について報告を頂きました。未達事項については、次年度を更に充実させるために、各委員会に申し送りすることと致しました。最後に山木副会長、江森幹事より本年度の総括と各委員長への謝辞でクラブ協議会を締めくくりました。

## 卓 話

### 留学生事情

地区米山学友委員長 永井 隆俊 会員



#### 一．留学生交流の意義

##### 1. 留学生受け入れの意義

留学生受け入れ、派遣を通じた留学生交流は、グローバル化する経済社会の中で、益々重要となります。日本と諸外国との間に親密な人的ネットワークの形成をすると共に、相互理解の増進や友好関係を図る上で、非常に効果的であります。

日本から帰国した留学生は、政治、経済、学術等様々な分野で活躍する人材であり、対日理解と友好関係に期待されます。

##### 2. 日本人学生の海外留学について

日本人の海外留学は、多様なニーズに応じた教育研究の機会を提供するものです。特に外国語運用能力の向上や、国際社会の一員としての日本に対する理解の促進、異なる文化に対応できる能力を可能にするものです。世界各国から優秀な学生が集まる外国の大学において、切磋琢磨し、学習、研究に打ち込むことは、真に国際的に通用するリーダーとなる日本人の育成につながるものです。

##### 3. 国内大学の国際化

留学生の受け入れ、派遣を進めることは、世界的に広い視点に立って、大学や教育研究の水準を改善することに役立ちます。そして留学生自身の活力や異文化との交流、国際競争力の強化を促進するものです。

##### 4. 知的国際貢献

外国人留学生の受け入れは、諸外国の人材を日本において育成することを通じた知的国際貢献です。日本で学んだ留学生が母国で指導的な立場で活躍することにより、国際社会に於ける日本の知的存在感を増大させることが出来ます。

## 二．日本の留学生 10 万人計画

1983（昭和 58）年当時の中曽根首相は、「留学生受け入れ 10 万人計画」を打ち出し、留学生の受け入れ拡大と総合的な留学生政策の実施に取り組みを始めました。

当時の留学生は、10,428 人と少数で、諸外国の受け入れ留学生と比較にならない程の人数でした。しかしその政策の結果、日本への大学院生、学部生、短期大学生、高等専門学校生、専門学校生で学ぶ留学生の数は年々増し、2003（平成 15）年 5 月には、109,508 人になり、20 年の年数をかけて目標を達成しました。2005 年には 117,000 人となっています。

しかしその結果に大きく貢献したのは、文科省と国立大より私立大学と日本語学校でした。私大留学生が急増したのは、文科省が留学生数に応じて特別助成を実施したことが背景にあります。90 年代後半には、留学生の定員を募集要項で明示するように求め、大学、学部、学科の新設申請時には、留学生を 1～3 割受け入れるように行政指導をしてきたからです。国策で始まった計画というのに、国立大入学者が増加せず、経済的に苦しい私費留学生が、授業料の安い国立大に受け入れてもらえず、高い私大に行かざるを得なかった構図が続いております。これは文科省が国立大に対して指導を怠った結果かと思料されます。

## 三．世界各国の留学生数

主要 50 ケ国における外国人留学生の総数は、国際的な経済、社会のグローバル化を反映して、1988（昭和 63）年から 1998（平成 10）年にかけて、約 94 万人から 161 万人へと増加しております。

アメリカ	約 37 万～ 49 万人	132%
イギリス	7 万～ 22 万人	312%
オーストラリア	2 万～ 7 万人	350%
フランス	13 万～ 15 万人	115%
ドイツ	9 万～ 17 万人	190%
日本	25,643～ 51,298 人	200%

以上の先進 5 ケ国では、諸外国との相互理解の増進、大学などの国際競争力強化の観点から、外国人留学生の受け入れに戦力的に取り組んでおります。

## 四．日本での留学生に対する問題点

### 1. 受け入れ中心から相互交流重視

諸外国との相互理解の増進、友好関係の強化を図るという意味では、留学生交流は双方向の相互交流であることが望ましいことです。

しかし現状の留学生政策においては、国際貢献という観点から、特に途上国からの留学生受け入れに重点が置かれて

おり、日本人の海外留学についての政策的な対応は充分取られておりません。地域別の留学生数は、受け入れはアジア中心、派遣は欧米中心で均衡が取れておりません。

### 2. 留学生急増に伴う質への懸念

最近の受け入れ留学生の変化を見ると、5 年前の 1998（平成 10）年には 51,298 人が、2003（平成 15）年には 109,508 人と約 2 倍の急激な増加となりました。増加した留学生の殆どは私費留学生であり、しかも中国からの留学生という状況です。

この背景には、①中国をはじめアジア諸国の著しい経済成長に伴う進学意欲の増大。②日本の 18 歳人口減少に伴い、大学側の積極的な留学生受け入れ姿勢強化。③入国在留審査における諸手続きの簡素化等が考えられます。

この様な状況の中で各大学においては、入学者選抜、教育研究指導、在籍管理などの受け入れ態勢を十分に整えることなく、安易に留学生を受け入れ、結果として学習意欲に問題のある留学生を在学させているのではないかという懸念が増しております。

さらに、一部の留学生による不法就労などの問題も表面化しています。

### 3. 留学生に対する課題

入管の審査への問題も少なくありません。例えば、日本語学校での昨年 4 月期生に対する審査では、ある高校の卒業証明書で偽造が出た場合は、同じ高校の本物の証明書を出した学生まで一律に不許可にしたケースがあったそうです。最近では中国に対して、預金残高証明書に加えて、資産形成過程を 3 年間さかのぼる証明書を求めているが、中国の南部では無尽で財産を運用しているのが主流であり、中国人の多くは、3 年間の証明書を出せというのは「日本に来るな」と言っているのと同じと嘆いているそうです。入管当局が審査を厳しくするのは、9.11 テロ以降、米国、欧州も例外ではないが、米国では大学関係者が強く抗議する声が上がっています。日本ではそうした声も乏しく、報道も犯罪がらみが目立ち、各種審議会も「不法滞在、不法就労」防止のための管理強化の大合唱であります。

## 五．21 世紀の留学生戦略

### 1. EU の人材交流計画

オーストラリアは、25 年後には世界の留学生が 700 万人以上（現 190 万人）になると予測しています。この予測は現在世界で展開する 2 つの留学交流の潮流によって、あながち大げさとは言えなくなりました。その 1 つは、急速な経済発展を背景にしたアジアの高等人材の争奪戦であり、もう 1 つは、欧州連合を底辺から支える為の人材交流計画（エ

ラスムス・ソクラテス計画)です。EUの人材交流計画とは、大量の学生を欧州内で留学交流させ、「欧州市民」意識を醸造して強い共同体を造るという壮大な試みです。

## 2. 高度人材

日本は公約した留学生受け入れ10万人を達成したことで「経済大国の責任」を果たしたかのようなムードですが、今や「責任」や「貢献」のために留学生受け入れを考えている国は、日本以外にないといっても過言ではありません。日本らしい受け入れ理念を否定するものではないが、大切なのは、日本は留学生をなぜ受け入れるのか、世界の潮流を熟知した上で敏速に検討する必要があります。それは日本も高度人材として留学生を捉えるスタンスをしっかりと捉えることです。

## 3. 卒業後の支援

大学は「研究の成果」のみならず「人材育成の成果」も問われています。卒業後の留学生の社会的活躍を1つのバロメーターとして、大学を評価し教育力を向上させねばなりません。日本の国策として「援助」の理念で招いた留学生が、母国でどのような活躍をしているのかは、しっかり把握する必要があります。潜在能力の高い人物を選抜教育し、帰国後も成果を出すまで支援し続けるシステムを構築してこそ「援助型」は完成するのです。

その実績を明らかにすることで世界からも高く評価されると思います。国内を見ても少子化による労働力不足、知的集約型産業に対する高度人材の必要性から、企業の積極的な留学生採用は当然の流れといえます。

## 4. 知日家育成

留学終了後「優秀」なエリート層は、就職すれば企業に高収益をもたらし、帰国して官僚になれば、日本との外交関係にもプラスをもたらすことと思います。

# 六. 卒業生は人材の供給源

## 1. 卒業生は人材の供給源

留学生の多くは、母国の義務教育を優秀な成績で卒業した人達です。勤勉さと礼儀正しさを持った学生です。政府も専門技術や知識を生かして、外国人が日本で就職するための入国、在留を積極的に認めると宣言しています。

## 2. 日本も留学修了者を高度人材として活用

日本経済連も「留学生の日本国内での就職は、専門的・技術的分野における外国人の活用にとって有効な方策である」と提言しています。それなのに日本で学ぶ留学生が12万いるのに、学業を終えて日本に就職出来た人は4,000人に過

ぎません。「故郷には学んだ知識を生かす場がない。自分の力を日本で試してみたい」と望みながら失意のまま去る人が後を絶ちません。

## 3. 人材育成は「日本人」は時代遅れ

人材は「日本人」の中から育てればよいという認識では、すぐに世界で太刀打ちできなくなります。特に今後の世界経済の鍵を握る中国から多数の留学生を受け入れていることは日本の優位性であり、彼らを生かすことは日本にとって大きなメリットです。又留学生にとっても卒業後日本で活躍できることは留学の大きな魅力となります。

\*\*\*\*\*

## ◆◆◆ 『友』インターネット速報 ◆◆◆

### 【ジャワ島の地震被災地での確かな支援を展開】

5月27日、マグニチュード5.9の地震がインドネシア・ジャワ島で発生、6,000人以上の死者と3万人以上の負傷者を出し救援が必要とされています。それに対し、ロータリアンたちは食料などを必要とする被災者たちを草の根活動で支援しています。

第3400地区(インドネシア)ガバナーのロドルフォ・バルマター氏は「今回の災害におけるロータリーの支援は実に的確であり、地元のロータリアンたちはそれらの支援をとて心強く感じています。ヨーロッパやアメリカ、日本、台湾、シンガポールなどから駆けつけた私たちの仲間のロータリアンたちは、緊急の支援だけでなく、今後の復興にも協力すると、インドネシアのロータリアンを安心させてくれました」と発言しています。

すでに被災地近くのクラブからは、食料や毛布、医薬品など必要な物資が寄せられています。また、バルマター氏宅を含む倒壊した13万世帯への援助として、イギリス・ロンドンのロータリアンたちは、生活必需品とテントの入った400個のシェルターボックスを提供するなど、大規模な支援活動を展開しています。

\*\*\*\*\* 担当者より \*\*\*\*\*

会報委員 館野 典久

本日は、雨の中ご苦勞様でした。

次回《6月30日》の卓話予定

「年度末夜間例会」